

石見神楽とは

島根県西部：石見地方で継承されている伝統芸能。八調子と呼ばれるテンポの速いお囃子が大きな特徴であり、他の芸能に類を見ません。石見地方だけで150以上もの神楽団体が存在し、秋祭りには各地の神社で朝方まで舞い奏でるのです。演目も、「古事記」「日本書紀」などストーリー性のある演目が多く、それ以外にも各団体オリジナルの創作演目があることも特徴です。

一部

岩戸



天照大御神が、弟、須佐之男命の乱暴に困り天の岩戸の中にお隠れになったので、世の中すべてが闇夜となり多くの禍が起りました。そこで神々は集まって相談され、天の宇津女命を呼んでおどらせ、長鳴鳥を鳴かせ賑わいを出します。これを不思議に思った大御神が岩戸を少し開けたところを、大力の手力男命が岩戸を開き大御神を迎え出し、再び世の中が明るくなり、平和を取り戻しました。

二部

弁慶



平安時代、月の美しい晩、弁慶が京の五條の大橋で、凛々しい稚児牛若丸の見事な太刀を奪おうと薙刀を持って斬りつけます。牛若丸は早業で巧みにかわし、遂に弁慶は力尽き降参します。その時、牛若丸は齢七歳の幼少、弁慶は並外れた大男。牛若丸は鞍馬山で大天狗から兵法を授かり、守護された後に源義経となり、弁慶は生涯、義経の家来となり、主人を守り、後世にその名を残した物語を神楽化したものです。

※石見神楽長澤社中創作演目

一部

頼政



平安時代末期、毎夜丑の刻になると東三条の森から黒雲がわき出て、御所の上を覆い尽くすと、帝はひどくうなされ、病魔に侵されてしまいます。この姿のわからぬものの退治を、帝は弓の名手である源頼政に命じます。ある夜、その日も突然に東三条の森から黒雲が立ち始め、みるみる御所を覆う中見えた動く影に、頼政が矢を放つと、落ちてきたのは、頭は猿、体は狸、尾は蛇、手足は虎の奇怪な獣・鵺でした。

二部

加藤清正虎退治



関白豊臣秀吉が肥後の国、加藤清正を総大将として朝鮮に出兵した時、明の大軍と交戦中家臣が虎に襲われ、士気の衰えることを恐れた清正公は虎退治に向かいます。清正は愛用の十文字槍で大虎と格闘し見事退治します。

これにより士気も上がり、明の大軍と激戦の末、降伏させたものを神楽化したものです。

※石見神楽長澤社中創作演目



石見神楽 長澤社中 (島根県浜田市)

石見神楽長澤社中は、詳細な設立時期は不明ですが、すでに明治初期には長澤神社の例大祭を中心に活動を行っており、先人たちの絶え間ない努力により、今日までその伝統を引き継いできた。

昭和45年の「日本万国博覧会」に出演し世界各国に紹介されて以降、アメリカ・中国・オーストラリアなど、数多くの海外公演も経験。社中員は現在24名で、年齢・職業ともさまざまだが、神社例大祭を中心に年間40公演を行っている。落ち着いた勇壮な舞とお囃子には高い評価を受けており、石見神楽界において、模範的な存在としてその名が知られている。

見どころ

金糸銀糸がふんだんに縫い込まれた重さ約20～30kgの神楽衣装、また、木彫りではなく和紙で仕上げられた神楽面は喜怒哀楽がはっきりとしており、舞う人によって違った表情を見せてくれます。そして、石見神楽の花形演目である「八岐大蛇」は、長さ18mの蛇胴を1頭につき1人の舞子が操り、須佐之男命との壮絶な合戦場面は、終始目が離せないほど、観る人を魅了させます。

一部

大江山



この神楽は、作者も出典も不明のようです。恐らく、「大江山絵詞」、お伽草子「酒呑童子」といった物より取材し、能『大江山』を翻案して作ったものと思われまふ。丹波の国大江山に酒呑童子という悪鬼が配下を従えたてこもり、都はもとより辺りの庶民を苦しめるので、帝は、蒼れ高い源頼光、渡辺綱、坂田金時などに命じて、山伏修験者に変装し、大江山に上り、ついに酒呑童子を退治します。

※石見神楽長瀬社中創作演目

二部

塵輪



神2人鬼2人が対決する、鬼舞の代表的な神楽。
第十四代の帝・帯中津日子の天皇が、異国より日本に攻め来る数万騎の軍勢を迎え撃ちます。
その中に塵輪という、身に翼があり、黒雲に乗って飛びまわり人々を害する悪鬼がいると聞き、天の鹿兎弓、天の羽々矢を持って高麻呂を従え討伐に向かい、激戦の末に退治します。

一部 二部

八岐大蛇



高天原を追われた須佐之男命が出雲の国・斐川にさしかかると、老夫婦が嘆き悲しんでいました。訳を尋ねると、大蛇が毎年あらわれて、既に7人の娘が攫われ、残った最後の一人も取られる運命にあるといいます。命は、毒酒を作らせ、これを大蛇が呑んで酔ったところを退治しました。この時、大蛇の尾から出た剣は、天の村雲の剣として天照大御神に捧げ、熱田神宮に祀られています。須佐之男命は助けた娘、櫛稲田姫と結婚しました。

二部

恵比須大黒



出雲国、美保神社の御祭神で、漁業・商業の祖神として崇拝されている事代主命(恵比須様)の鯛釣りの神楽です。父神であり、出雲大社の御祭神である大国主命(大黒様)との親子舞により、家内安全、商売繁盛の御利益がある大変おめでたい神楽です。



石見神樂 長澤社中

代表 長富 幸男



柳山 肇覺



南谷 秀雄



寺井 正道



亀谷 克幸

山田 章一

川神 裕司

漆迫 敏彦

平野 雅一

原田 裕

有間 透

漆迫 裕喜

永見 監

廣瀬 純

柳山 博

桐木 健

川神 久和

川神 丈尚

大谷 竜彦

廣瀬 隆熙

上野 恭輝

大坪 航平

藤野 一誠

母社：長澤神社（長澤社中奉納神社）